



★標準学力分析検査の分析の仕方①★

今回は、先日返却された標準学力分析検査の結果の分析について考えていく。

1, 2年生は8月, 11月, 1月末に, 3年生はほぼ毎月実力テストが行われていくことになるので, 今回の説明を参考にし, 次回のテストでの成績の飛躍につなげていってほしい。

まず, 実力テストにおいては, 県の平均点が各教科50点, 合計250点に近くなるよう作成されている。(簡単すぎたり難しすぎたりしたら, 昨年度との比較はできなく, 実際の実力が正確に測れないため)

以下の表は, 4月の標準学力分析検査の過去3年間の県平均点である。

3年生福岡県の平均点 (3年間)

	総得点	国語	数学	英語	社会	理科
2021年度	237.0	48.4	46.1	54.5	43.9	44.1
2020年度	255.0	54.0	50.8	48.9	52.4	48.9
2019年度	255.0	54.0	50.8	48.9	52.4	48.9

2年生福岡県の平均点 (3年間)

	総得点	国語	数学	英語	社会	理科
2021年度	264.0	62.4	54.8	52.2	43.0	51.6
2020年度	266.9	55.7	53.0	53.1	55.6	49.5
2019年度	266.9	55.7	53.0	53.1	55.6	49.5

1年生福岡県の平均点 (3年間)

	総得点	国語	数学	英語	社会	理科
2021年度	213.5	61.7	56.0		47.0	48.8
2020年度	219.7	57.2	54.5		56.5	51.5
2019年度	219.7	57.2	54.5		56.5	51.5

見ていただいてわかるように, 2020年度, 2019年度は, 県平均はどの学年も変わっていない。つまり, 1年前のテストと難易度が変わらないように作成されていることがわかる。しかし, 今年度の平均点は, どの学年も過去に比べ大きく変動している。これは, 昨年の休校と入試問題の削減などにより, 出題内容が若干変更されたことが関係していると考え。ここからさらに推測していくと, (私個人の考えなので, 間違ったらゴメンです m(_)_m。)今年度の入試問題は, 内容を削減すると公表されていないため, 一昨年の入試問題の内容に近づくのではないかと考える。しかし, 昨年の内容と大幅に変更することも難しいので, 過去の入試問題の平均点からまた変動してくるであろう。「じゃあ, どうやって, 何を勉強しろというのか?」という声があがってくると思うが, ここで視点を変えてみたい。知っている人もいるだろうが, 学校教育は学習指導要領に基づいて行われており, 中学校では, 新学習指導要領が令和3年度(今年度です)に全面実施されている。そのため, 各教科の内容が見直され, 教科書の内容が昨年と変わっているのである。入試問題は, 教科書の内容に基づいて作成されなければならない。(いつか別の機会のハシゴン桜で説明します。)ということは, どちらにしても教科書が変わるなら, 入試問題は過去問と変わる可能性はあったのだ。長くなったが, 結論をいうなら, 教科書変わって教科書の内容に準じてでるなら, 今授業で使っている教科書を一生懸命勉強するのが最も効率の良い学習方法である。

次回, もう少し詳しい分析の仕方を説明することにしよう。